

令和８年度 タブレット型ＰＣを活用した療育・訓練等に関する研修実施要領

１ 目的

こども療育センターでは個々の障害の特性に応じた障害児の療育・訓練を行っており、平成２４年度からタブレット型ＰＣを使用した療育・訓練を開始している。

このタブレット型ＰＣを使つての療育・訓練等は、現在、大学等で盛んに研究が行われており、近年は学校教育等におけるタブレット型ＰＣの導入が推し進められ、加えて地域の障害福祉サービス等事業所においても、その導入等について学ぶ機会を求める声が高まっている。

こうした状況を踏まえ、外部の専門家による指導等を受けることにより、こども療育センター等における療育・訓練の専門性を高めるとともに、療育内容等をあらためて振り返る研修とする。

２ 日程等

令和８年１２月１５日（火） ９：３０～１３：００

※昼休憩なし。合間に小休止あり。

３ 場所

広島市東区地域福祉センター ３階 大会議室１・２（広島市東区東蟹屋町９－３４）

４ 講師

氏間 和仁 氏（広島大学大学院人間社会科学研究科・教授）

山下 祥代 氏（広島大学大学院人間社会科学研究科・研究員）

５ 対象者

こども療育センター（北部及び西部こども療育センターを含む。）、特別支援学校並びに障害福祉サービス等事業所の作業療法士、言語聴覚士、理学療法士、保育士、教員など。

６ 定員

６０名

７ 研修内容

「発達障害児への学習・コミュニケーション支援としてのＩＣＴスキルについて」をテーマとして、主に幼児期から小学生を対象とした発達障害児を含むこどもの育ちの過程における、道具を用いた学習やコミュニケーションの支援の有効性について、合理的配慮等の基本的な考え方を踏まえて、講師より指導を受け、その理解を深めるとともに、実際に機器を使用し、教材の作り方を体験・修得する。

８ 参加申込

（Ⅰ）締切日

令和８年１２月２日（水）

(2) 方法

申込期限までに、市ホームページ上に設けた受講申込入力フォームから申し込むこととする。

【タブレット型PCを活用した療育・訓練等に関する研修 受講申込入力フォーム】

URL:[https://www.city.hiroshima.lg.jp/living/fukushi-kaigo/
1014921/1029773/1039783/1023733.html](https://www.city.hiroshima.lg.jp/living/fukushi-kaigo/1014921/1029773/1039783/1023733.html)



9 受講者の決定

受講希望者が定員を超過した場合は、受講者の抽選を行う。また、研修の開始一週間前を目途に、受講の可否について、申込者に通知する。(通知については、原則として受講申込時に入力された連絡先メールアドレス宛てに送付する。)

10 使用するタブレット等

講座の実技で使用するタブレット等は、可能であれば受講生が普段業務で使用しているタブレット型PCを持参するものとするが、タブレット等を保有していない受講生については、貸し出しを行う。(10台程度)なお、タブレット等の数に限りがあるため、申込状況によっては複数名で1台を共有して使用していただく場合もある。

11 研修の中止

新型コロナウイルス感染症などの社会情勢により、研修を中止する場合がある。研修の中止を決定した場合は、別途受講生に対し通知を行う。

12 問合せ・参加申込先

広島市こども未来局こども青少年支援部障害児支援担当（広島市こども療育センター内）

担 当：宮地、中津

電 話：082-263-0683

FAX：082-261-0545

E-mail：ko-shien@city.hiroshima.lg.jp

【講師紹介】氏間 和仁 氏

広島大学大学院人間社会科学研究科・教授。公立盲学校で12年間教員として務めた後、2006年より福岡教育大学、2011年より広島大学大学院で特別支援学校の教員養成に従事している。2000年からタブレットを自身の授業に本格導入し、成果を国際学会において報告してきた。同大特別支援教育実践センターで実施されている教育相談では年間200ケース以上を担当し、その半数以上は発達障害のある児童生徒に対するタブレットを活用した学習支援である。学校からの要請に応じて学校を訪問して、タブレット導入のサポート役も担っている。視覚障害のみならず、知的障害特別支援学校、小中高等学校、学習障害の会、自閉症の会などでの講演やワークショップを多数担当している。2019年度より音声教材の製作と提供事業も開始した。